



死体提供意思表示カード

何らかの理由で

長く生きられない人が所持する事で死後に
自らの身体を提供する意思を示す事ができるカード。

その身体は主に医療機関などに買い取られ
残された遺族に膨大な金が入る仕組みだ。



ただし出資者の中には

悪趣味な資産家などもあるという噂もある。

提供者が出資者を選べないこともあり

倫理的に問題視されているが利用する人は多い。

主に先天性の疾患などを抱えた子が
残される親のために取得する事が多いようだ。

だからね、私もカードを取ろうと思うんだ。



オレは反対だーそんな得体のしれないモノ！

パパもママも毎日遅くまで働いて私の為に高い医療費なんかを出してくれてるのはよく知ってる。

学校も無事に卒業できたしもう業も止めてさ…

これから短い時間でもパパとママと一緒に思い出を増やしたいんだ。それで私がいなくなってもせめて裕福に暮らして欲しいの。私にもそのくらい親孝行させてよね？

あなた…どうするの…？

……それでお前は本当に満足なんだな？
なら分かった、これからは家族3人水入らずでやっていこう！

ありがとうパパ、ママ…

約半年後、ある日彼女はいつものように就寝するが二度と目覚める事は無かった。

そして両親が悲しむ間も無いまま彼女の遺体は死体提供センターの職員の手によって特殊車両に載せられ出資者の元へ運ばれることになる。

『今回は出資者の方のご意向でお二人にも同行して頂きます。突然大切なお子さんを奪われるのはさぞ悲しいでしょうしせめて近くにいてあげてください…この事です。』

職員によると身体には傷もつけないしその日のうちに返却されるこの事で両親はやや安堵したが娘の身体がどういった事に用いられるのかは彼にも分からないとのことだった。

そうしている間にも車は小さな研究施設のような建物に到着する。

『ここからは私がお子さんをお運びします。』

規則で遺族と出資者は顔を合わせてはいけない事になってますので…』

そう言うと建物の中へと消えていく職員。数分後、出てきた職員の言伝で両親は建物の待合室へと案内される。建物内は小奇麗な病院のような雰囲気。不安感に包まれていた両親も少しずつ気持ちを落ち着けていく…

その壁の向こうで何が行われているかも知らずに…

彼女の死体は薄暗い部屋で
何かの台にピタリと固定されていた
衣服は全て脱がされ
女の部分は余すことなく
白日のもとに晒されている

そしてその死体の横で
股間をはち切れんばかりに
勃起させた全裸の男が佇んでいた
彼が今回の出資者であり
熱心な屍姦愛好家である



しばらく彼女の身体を眺めていた男は
おもむろにローションを手に取り
いやらしい手つきで屍体の糞所へと触れると
わざと音をたてながらいやらしい手つきで
彼女の肉を執拗にこねたくっていく

ひとしきり弄り倒して満足したのか
にちゃりと粘質な糸を引かせながら男が手を離す
生殖能力を失った肉の穴には
たっぷりと潤滑油が塗り込まれ
わずかな明かりにてらてらと光っている



男はもう我慢がならないという感じで
台に固定された人型の肉塊に覆いかぶさると
入念にほぐされた穴際に狙いを定め
自らの生殖器でこじ開けていく



まだ硬直しきっていない身体は
パンパンに張った亀頭をずるりと飲み込み
侵入してきた異物をいい塩梅に締め上げてくる
そのまま腰を押し進めると
接合部からトロリと赤黒い液体が漏れ出した



FAN BOX

文字無し
射精差分



死体提供意思表示カード

自分が他界した際、その身体を提供する
意思を示すことが出来るカード。

提供された身体は主に医療機関等に買い取られ
遺族に膨大な金が支払われる。



ただし出資者の中には
悪趣味な資産家等もいるという噂がある。
提供者、遺族共に提供先を選べない事もあり
倫理的に問題死されているが利用者は多い。

主に先天性の疾患等を抱えた子が
残される両親の為に取得する事が多いようだ。

(飲み会帰りの大学生カップル、女は泥酔している)
いやあ飲んだ飲んだ〜
明日大学行けるかなあ〜



おいおい大丈夫かよ香里(かおり)！
そんなんでちゃんと家まで帰れるか？
家まで送っていてもいいんだぞ？

大丈夫だつて〜！
歩いてたつたの10分ちよいだもん！

つたく人が心配してやってるのに！
最近この辺も物騒だし気をつけて帰れよ！

分かってるつて〜
じゃあまた明日ね！

それが香里との最後の会話になるとはその時は微塵も思っていなかった。

あの後、約1時間して人通りの少ない路地で香里の遺体が発見された。背後から首を絞められて殺害されたらしい。物品を漁られた様子は無く犯人の動機や目的は不明。いまだ逃走中との事だ。

俺は馬鹿だ……
あの時強引にでも送っていつてやればこんな事にはならなかったはずだ……

……そんな後悔を抱えながら俺は今彼女の亡骸と共に死体提供センターの車に揺られている。
両親と連絡がつかなかったようで、俺は香里との関係を聞かれると訳も分からないまま車に乗せられた。車の中から外は見えない。

しばらくすると車が止まり、降りるとそこは何かの建物の中だった。

どこかへ運ばれていく香里を横目に俺は職員によって別室へ案内される。

部屋の中には家具の類は何も無く
壁に小さなガラス窓が付いている。
おもむろに窓を覗いた俺は思わず目を見開いた。

窓の向こうの部屋はこちらと同じ殺風景なものだった。

……服を脱がされた香里の遺体が横たわっている事を除いて。



「香里!？」

思わず声を上げるが香里はただ虚空を見つめている。

すると程なくして香里のいる部屋のドアが開き

恰幅の良い男が入室してきた。

男もまた全裸だった。

俺の背筋に悪寒が走る。

まさかそんな事がとは思いたくなかったが
香里の遺体を前にした男の怒張した陰茎が
これから起こるであろう事を物語っていた。



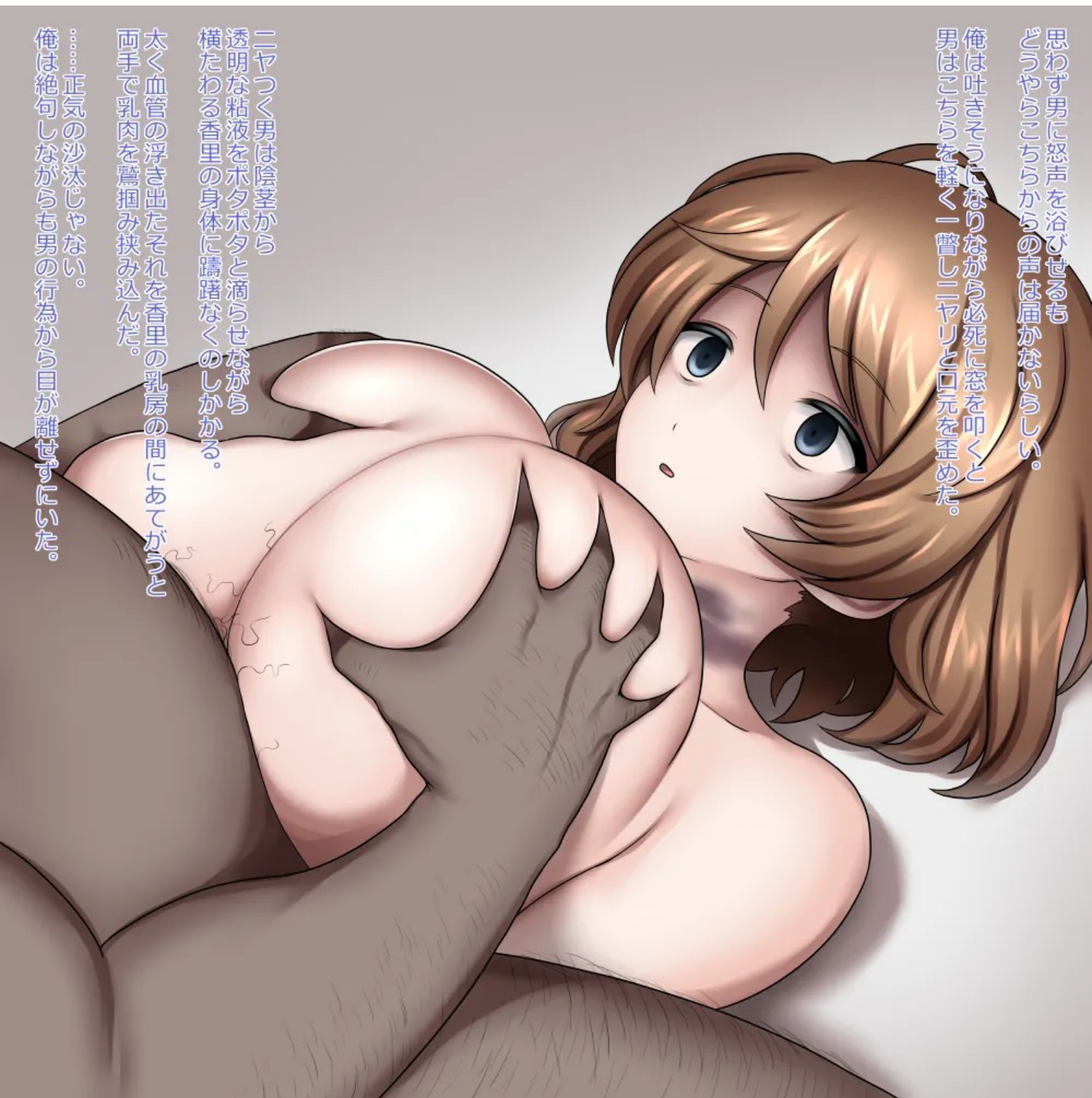
思わず男に怒声を浴びせるも
どうやらこちらからの声は届かないらしい。

俺は吐きそうになりながら必死に窓を叩くと
男はこちらを軽く一瞥しニヤリと口元を歪めた。

ニヤつく男は陰茎から
透明な粘液をポタポタと滴らせながら
横たわる香里の身体に躊躇なくのしかかる。

太く血管の浮き出たそれを香里の乳房の間にあてがうと
両手で乳肉を驚掴み挟み込んだ。

……正気の沙汰じゃない。
俺は絶句しながらも男の行為から目が離せずにいる。



男の太い指に香里の乳はひしゃげ
ただ陰茎を刺激する為の道具として扱われている。

男は恍惚の表情を浮かべ
ひたすらに香里の身体を貪っていた。

乳房には陰毛がべったりと貼り付き
男の体液で糸を引いている。
目の前で壊されていく恋人の遺体を前に
俺は気づくと勃起していた。

男は息を荒げた様子で力任せに香里の乳を揉み潰すと
腰を深く突き入れる。
誰が見ても分かる。射精するのだ。



FAN BOX

文字無し

射米青

放尿差な





死体提供意思表示カード

所持者が他界した際、その身体を他者に提供する意志を示すことができるカード。

提供された身体は主に医療機関に買い取られる事が多いが
出資者の中には当然悪趣味な資産家等もいる。
特に著名人の死体はそういった人間に
高額で買い取られる傾向が強い。





三人組音楽ユニット「ライブ3」
そしてそのメンバーの一人「皆川命」(みなかわみこと)
俺はフアンの一人として、彼女をデビュー当時から追いつけている。
……いや追いつけていた。

本日未明、人気アイドルグループの皆川命さんが
自宅にて遺体で発見されました。

玄関には鍵がかけられ誰かと争った形跡は無く
遺体に目立った外傷も無い事から――

信じられなかった。

テレビから流れる死亡報道は確かに皆川命の名前を伝えている。

死因は薬物による中毒死。

室内には遺書が残されていたようで、自殺だと断定された。遺書にはアイドルという立場の重圧に加えてメンバーの不仲や事務所からのハラスメントがあり精神的に限界を迎えてしまった事等が書かれており最後にファンへの感謝と謝罪で締められていた。

自ら死を選ばざるを得ない状況でもファンの事を忘れない彼女の気持ちに涙が溢れてきた。

突然スマホのメール着信音が響く。



差出人を見てファンクラブの会報だと分かった。
だがどうも件名がおかしい。

「件名」皆川命ラストライブ当選のお知らせ。

タチの悪いチエーンメールだと思ったが

差出人のアドレスは確かに会報の送信専用のものだ。

メールにはラストライブとやらの日時と住所

それと絶対に他言無用であるといった事が記されていた。

日時は……明日だ。



日が明けて、俺は気づくとメールで指定された場所にいた。その場所は森の中にある廃校で、立入禁止の看板が立てられている。しばらくするとスーツを着た男がやってきた。

『メール確認させていただけますか？ ……ご案内します。』

男に言われるまま校舎裏の体育館へと足を踏み入れる。

中は真っ暗だったが、次第に目が慣れてくると

中央に何か舞台のようなものと、その上に人影が見えてきた。

『やあ、待っていたよ。』

先程のスーツの男とは別の男の声。

『先に言うておくと、すまないが君の声はこちらには届かないんだ』

『あまり水を差されたくないんでね。』

状況に混乱していると、突然舞台上でライトが点灯した。

現れた光景に俺は思わず息を飲んだ。
舞台上には覆面を付けた全裸の男に背後から抱きかかえられる
皆川命の姿があつた。

目には光が無く、抜け殻になつたような姿に
もしかしたらまだ生きているのかもという希望は打ち砕かれた。
皆川命はもうこの世に存在しないのだ。
だが今はそれよりも彼女のこのあり得ない格好だ。



殆ど裸のような状態で、露出した大きな乳房には
申し訳程度のニブレスが貼られ、性器に至っては丸出した。
事もあるうに男はその彼女の身体をいやらしく弄っている。

俺も当然好きなアイドルの裸体を想像した事くらいある。
だが今現実になんかそれを目の当たりにした俺に
湧いてくる感情は、男に対する怒りと殺意だ。

思わず舞台に駆け寄るもよく見ると全面がガラス張りになっており
目前で行く手を阻まれてしまう。

「この日の為に大枚はたいて芸能界に手回ししたり大変だったよ。
しかし彼女があのかード登録をしていると知った時は嬉しかったね。」
「こうして彼女を抱く為に事務所になんかパワハラなんかさせてさ。
いや中々しぶとかったけどこの強さが命ちゃんの良い所だね。」

男が聞いてもいない事をべらべらと語りだす。
この男は何を言っているんだ……？

「君は本当に運が良かったね。
命ちゃんの最後のライブを見れる唯一の人間なんだから。」

そう言うとき男は彼女と屍体と何の躊躇いもなく繋がった。
俺はその瞬間をただ呆然と見ている事しか出来なかった。



殆ど裸のような状態で、露出した大きな乳房には
申し訳程度のニブレスが貼られ、性器に至っては丸出した。
事もあるうに男はその彼女の身体をいやらしく弄っている。

俺も当然好きなアイドルの裸体を想像した事くらいある。
だが今現実になんかそれを目の当たりにした俺に
湧いてくる感情は、男に対する怒りと殺意だ。

思わず舞台に駆け寄るもよく見ると全面がガラス張りになっており
目前で行く手を阻まれてしまう。

「この日の為に大枚はたいて芸能界に手回ししたり大変だったよ。
しかし彼女があのかード登録をしていると知った時は嬉しかったね。」
「こうして彼女を抱く為に事務所になんかパワハラなんかさせてさ。
いや中々しぶとかったけどこの強さが命ちゃんの良い所だね。」

男が聞いてもいない事をべらべらと語りだす。
この男は何を言っているんだ……？

FANBOX
射精パート
文字無し

